北海道・中野先生田中先生より

今回は、北海道から飛行機ではるばる来られたお二人の先生からのメッセージです。

まずは、中野雅敏先生から。

渡辺先生

とにかく久しぶりの再会がとても嬉しかったです。元気な姿を見ることができて安心しました。お子さんたちの成長にも驚きました。会えなかったのは４年ほどでしょうか。みんなとても大きくなっていて感動しました。

正直、今の学年や学級で上手くいかないことも多く悩んでいるところで、気持ちが落ち込み気味でした。この状況を何とか打開したいと思い、渡辺先生のもとを訪ねることにしました。渡辺先生の生き生きとお仕事をされている姿と４年１組の子どもたちの楽しそうに学んでいる姿を見てたくさんのパワーをもらいました。渡辺先生はまさにパワースポットですね！３学期も頑張れそうです。改めて、学校と授業を見学させていただきありがとうございました。

今回、学べたことについて３点に絞ってまとめてみました。

「空間と時間のゆとり」

まずは、校舎や教室に空間的なゆとりがたくさんあると感じました。人と人との適度な距離がとれたり、別室が多くあったり、一人で集中できる空間が用意されていたりと、学校の構造そのものが子どもたちにゆとりをもたら

しているのだと思いました。また、時間的なゆとりも多く設定されていると思いました。Ｍｙ Time やスナックタイム、休み時間をしっかりと確保することで気持ちにゆとりをもって過ごすことができていると感じました。自分の学校では、子どもたちがいつも時間や課題に追われて生活しているように思います。ゆとりのなさからイライラしたり、子ども同士のトラブルが起きたりしているのです。また先生方にもゆとりがあることで子どもたちに丁寧に接することができるのだと思います。理事長のお話にもあったように、適切な仕事量や仕事内容の精選が公立校にも必要だと感じました。

「指示は短く適切に」

道徳の授業を見ていて、渡辺先生の指示の短さ、また適切なタイミングについて再確認することができました。渡辺先生の指示は、何といっても分かりやすい！簡潔であるため、子どもたちにスッと入る。聞き返されることもない。

一つのことに一つの指示、そして、確認。このことを徹底的に行うことがどれだけ大切なことなのか、渡辺先生の授業を見るとよく分かります。最近の自分の授業を振り返り、喋り過ぎているなと反省しました。自分の課題がよりはっきりしてきました。

「空白を生まない」

これも学年を組んでいた時に渡辺先生がよく言っていたことです。改めて授業を見させていただいて、この流れるような活動と活動のつなぎ方は、まさに神業ですね。振り返りの時に話題に挙がっていましたが、活動と活動に重なりがあることが、滑らかに授業が流れていくのですね。早くできる子もいて、ゆっくりな子もいて、でも、ここぞという時には揃っている。あらかじめこうしようと計画しているというよりは、手持ちの「指示の引き出し」から、その時その時に合わせて適切な指示を出している。自分もしっかりできるようになりたいです。

今の自分にとって必要なことは、何か新しいものを身に付けることよりも、今、中途半端にやっていたことの精度を上げていくことだと思いました。「指示発問を短く適切に」「空白を生まない」「ほめる」「授業の仕組化」…挙げたらきりがないですが、どれもこれも中途半端だと思います。まずは、これらの精度を上げることが学年や学級の問題を解決することの大きな一歩になると感じています。

今回、学校見学に参加できてよかったです。渡辺先生に会えたこともそうですが、やる気に満ち満ちている先生方や、生き方がかっこいい松原さんたちに会えたことも自分にとって刺激が強かったです。３学期のスタートに向けて準備を進めていきます。

追伸

奥様には送迎していただいたり食事を振舞っていただいたりと大変お世話になりました。また、一次会のお店の方たちにも大変お世話になりました。よろしくお伝えください。札幌に戻ってきた時には、また飲みに行きましょう！おいしいお店に連れていきますね！

中野

中野先生は、札幌にいたころに同じ学年を組んでいた先生です。

こんな風に１０００ＫＭ以上距離が離れても尚、「学びたい」という熱を燃やして北海道から来られる。

これだけでも本当に素晴らしいことだなと思いました。

教師という仕事は専門職なので、「どういう技を持っているか」という点は非常に大切です。

そして、それと同じくらい、「学び続ける」という熱意の部分、人間としての芯となるところが大切なんですね。

学びをストップした瞬間、私は教壇に立つべきではないとすら思っています。

なぜならば、教職とは学び続ける子どもたちと共にある仕事だからです。

変わり続けよう、成長していこうという子どもたちと相対するわけですから、自分自身がその歩みをストップすることは致命的であるということです。

専門職としての技に対する気概や、こんな風にどれだけ距離が離れても自分が学びたいものを探究していくことは、非常に大切なことであると中野先生のお便りから改めて感じました。

続けて、田中先生のお便りも紹介します。

先日は学級を見学させていただき、ありがとうございました。

まず学校に入って感じたことは、空気感がゆったりしているな、というこ

とでした。子どもたちは元気いっぱいに挨拶をしてくれてとても明るい雰囲気なのですが、どこか落ち着いた感じもある不思議な感覚でした。自分を主張することが得意な子、おとなしい子、自分の時間をゆっくり過ごしたい子、色々な子がいる中でそれぞれが認められている。どんな過ごし方をしていても、どんな表現の仕方をしていても、それをお互いが受け入れているからこその雰囲気なんだな、と後から気が付きました。言葉ではよく、個性を認める、一人一人違うんだから、みんな違っていい、などと言うし聞くことがありますが、それを体現している学級だと感じました。だからこそ、安心して学校に通い、自分を表現しながら学習に参加することができている。子どもを否定せず、みんなができる仕組みを作ってきた渡辺先生だからこその学級経営だなと感じました。

子どもたちが必要感をもって学習に臨んでいる姿、「やらされている」ではなく自分がやりたいと思うからやる、書きたいから書く、話したいから話す、という自主的な姿に感動しました。楽しいと感じるからこそ、「こうしたい」が生まれるのだな、と生き生きした子どもたちの姿を見て感じました。日々の忙しさを言い訳に、その場凌ぎで過ごしてしまうことを反省し、どうやったら子どもたちのために時間を使えるか、どんな子どもの姿を引き出したいかということを毎日考えて過ごせるよう努力しなければならないと気付かされました。

自分はまだまだ自分を表現することが苦手で、自分の考えたことを伝えること、質問すること、感想を書くこと、日々の自己表現にとても勇気がいります。子どもたちを見ていて、それが恐れずにできることに素直に「すごいな。」と思いました。自分から自己紹介や挨拶をしてくれる、教えてくださいと言える、百人一首をやりましょうと誘える。どれも子どものころから今大人になり教師になった私でもとても勇気が必要で、もしかしたらできないかもしれないなと。そんな子どもたちの姿に、もっともっと頑張らなきゃいけないことがたくさんあるな、と感じた一日でした。

久しぶりに渡辺先生に会うことができ、愛知の学校に会いに行くことができ嬉しかったです。なんとなく頑張っているつもりで過ごしていた数年間ですが、まだまだやらなければならないことがたくさんあると気付かされた刺激的な一日でした。各地でご活躍されている先生方のお話も聞くことができ、とても贅沢な時間だったなと改めて感じています。素敵なつながりを作

ってくださりありがとうございました。しっかりと自分を磨き、またお会いできることを楽しみにしています。本当にありがとうございました。

田中先生は、「仕組みづくり」のところについて詳しくメッセージを寄せてくれています。

「どのように教えるのか」と同じくらい、「どんな仕組みを作るのか」というポイントは教室での学びを充実させるために極めて重要なポイントです。

辞書を引いてあんなに盛り上がるのも、地名を探してあれだけ熱中できるのも、その多くは「仕組み」の力です。

なぜなら、私はもはやそこに関与していないからです。

洗練された仕組みは、子どもたちの知に対する熱を開放します。

このことを知っている教育者は、おのずと「どんな仕組みを作ればよいのか」ということを学び続けようと考えます。

今回全国各地から来られた先生方は、その知や熱を開放する「凄さ」を知っている方々ばかりです。

知っているからこそ、これだけ遠方からでも駆けつけて学ぶのです。

そして、その大前提には「自分は知らない」という素晴らしい出発点があります。

「自分は知っている」「自分は分かっている」と思う人は、こんな風に動けません。

知らないし分からないということをハッキリわかっているから、学ぶのです。

とてもシンプルな原理ですが、これは子供でも大人でも変わりません。

自分は知らないという前提に立つ人は、どんな場所でもどんな人からでも柔軟に学び取ることができるようになります。

「我以外みな我が師」の境地がまさにそれだと言えるでしょう。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6lFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit